

令和 3 年度 オガサワラカワラヒワ保護増殖事業検討会(第 1 回)

【議事要約】

日時：令和 3 年 9 月 30 日（木）13：30～16：00

場所：Web 会議システムによるオンライン開催

(1) 保護増殖事業実施計画の構成について

1) 構成について

- ・具体的なスケジュールが必要（2022 年～2027 年）。
- ・優先順位をつける。
- ・長期と短期的な対策を明記する。
- ・事業間の関係や構造が見える形に整理する。
- ・想定されるシナリオは複数用意する。

2) 事業内容について

- ・オガヒワの繁殖個体数推移のモニタリングを明確な形で事業に入れる
- ・時期による餌の嗜好性や冬の分布情報等、保全に必要な基礎情報の収集は独立した項目を立ててもいい。
- ・補正予算等に対応できるよう、柔軟にアイデアを実施計画の中に記載しておく。

(2) 事業の目標設定について

- ・検証して随時見直せるサイクルが必要。
- ・各事業の目標設定。
- ・モクマオウに対する枝打ち、ステンレス板のまき付け対策の実施。
- ・目標に使用する数値は個体数ではなく繁殖個体数。
- ・大まかな考え方はこれでいいが、母島における観察数は比較する数値には向かない。
- ・10 年前の 300 個体（林野庁関東森林管理局報告書 2011 年）を目標にするのは一つの手。
- ・南硫黄島集団はモニタリングが困難なため、母島列島集団を数値目標の対象とすべき。例えば、母島集団で 2000 個体。
- ・個体数の数え方（モニタリング方法）を明記する。
- ・数値目標の数値を導き出す理屈は複数あっていい。

- ・最終的には聳島列島や父島列島の個体分布が回復することが望ましいが、個体の供給源として、本事業の目標は母島列島の集団に限るという意味がある。
- ・南硫黄島の個体群は絶滅の心配がないわけではない。誤解を生む表現は修正。

(3) ネズミ対策について

- ・丸島や二子島のネズミの種類の情報収集が必要。
- ・範囲内、範囲外で比較するセンサーカメラの位置は変えたほうがいい。
- ・ドブネズミの繁殖期等の情報が不足している。
- ・向島の対策は、BSの間隔に縛られずに、全島に展開したほうがいい。
- ・BSだけでなく、手撒きも検討した方がいい。
- ・目標を見据えたスケジュール感を示してほしい。
- ・ネズミ対策は保護増殖以外の、専門で議論できる場があってもいい。
- ・毒性感受性試験は、簡易な方法でサンプルを実際に入手してすぐにやるべき。内地のカワラヒワで試験もあり。
- ・オガヒワが繁殖地からいなくなる冬に殺鼠剤の散布を行えば感受性が高くても実施可能。
- ・ネズミ対策をどの時点までにどこでどのぐらいの規模でやって、いつまでに根絶を達成するかというスケジュールは第2回検討会で提示する。

(4) ノネコ対策について

- ・ネコの捕食圧も高く、重点的な対策が必要。
- ・CPUEを「捕獲効率」という意味合いではなく、密度の指標である。
- ・ネコを捕獲することで地元との軋轢が生じないように、地元の方の意見を聞きながら進めてほしい。

(5) 生息域外保全事業の進捗状況について

- ・次年度の捕獲計画、飼育下個体群の遺伝的多様性をどう保つのか、放鳥計画などの議論が必要だが、第2回検討会で議論する。

以上